

オホーツクの風

平成26年10月8日(木)

0011号

発行所

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16

Tel 0157-61-0684

今年12月1日、新病院開院

引っ越し大作戦、通常診療と同時進行中!!

北見赤十字病院の移転新築工事は清水・北成・村井・松谷特定建設工事共同企業体によって現在最終仕上げ段階に入っている。

今月末、引き渡しを受けた後、新病院の診療に関わる全ての整備を1カ月ほどで完備し、11月28日(金)・29日(土)・30日(日)の3日間で、新病院への引っ越しを実施します。そして待ちに待った新病院の開院を迎えるのです。

その引っ越し大作戦を実施するために「病院移転実施本部」を院内に設置。本部長に荒川副院長、副本部長に相原事務副本部長・佐々木看護副本部長が就任。事務局は総務課が担当。総勢50名弱の大世帯です。ここであらゆ



撮影：平成26年7月15日

る課題のすりあわせ、話し合いが行われ、その解決策がออกมา、実施します。医療関係以外の引っ越しは日本通運が担当し、9月1日から病院の体育館にそ

の道のプロが常駐してその準備を進めています。引っ越しの最大の課題は患者さんのベッドを29日(土)午前中に新病院にすべて納めることで

す。現在、500ベッドほどの患者さんが入院して居ますが、患者さんの外泊や退院、入院の調整などで200ベッド余りにしなければ1秒1分を争うベッドの移動は出来ません。その調整を看護部のスタッフが各病棟ごとに行っています。

9月27日(土)、ベッド搬送のシュミレーションが南館と新病院を繋ぐ2階の渡り廊下を使って行われました。渡り廊下の導入部が直角に曲がっていて、ベッドが角にぶつかり完全に短時間に搬送することが出来ませんでした。早速、工事担当の清水建設JVは緩やかに斜めからの搬入が出来るように改修工事に着手しました。

10月25日(土)、新病院の情報システムの作動試験を行います。模擬の患者さんが朝、外来受付に来ます、診療、検査(レントゲンや生体検査)、そして会計の精算まで、正確に時間通りに行われるかのシュミレーションが行われます。

最後に残る最大の難問は、旧ベッドや備品・機器の廃棄処分です。患者さんが目にする新病院のベッドや備品・機器などは新しいものになります。旧病院で使った備品など大量の物品をどこで保管し、それをどう処分するかです。医療福祉団体への譲渡そして廃棄物の投棄などその対策に頭を痛めているところなのです。

今年・12月1日(月)、新病院の開院の後、南館の改修、東館・西館・別館・体育館などの解体、多目的ホールの建設、そして道立病院の用地の整備などが今後行われ、全ての工事の完了は来年11月末の予定です。



平成26年9月29日(月)夕方、会の谷川・阿久津・阿部・逢坂が総務課の遠藤係長を訪れ、引っ越し大作戦の取材を致しました。係長はご多忙にも関わらず、詳しく分かりやすくインタビューに応じて戴きました。その取材を基に当紙面を編集しました。

北見での思い出づくりの集い

平成26年8月31日(日)、北見赤十字病院の臨床研修医、6名の皆さんが参加して、交流を深める、「北見での思い出づくりの集い」が夏の日差しが心地よい野付牛公園(イチイの森)で開催。午前中はフォークダンスに興じ、正午からは焼き肉料理とオホーツクビールで食事を楽しむ。

背景と目的

北見赤十字病院では、医師確保の一つとしてマッチングによる臨床研修医の受け入れを積極的に行っています。

病院は臨床研修医の指導体制、給与、などの改善・強化に取り組んでいます。

臨床研修で日頃苦勞している先生方に北見市民として、その感謝の気持ちを伝え、北見での研修が少しでも楽しかったとの印象を残して欲しいと思っています。

大げさですが、医師確保の一助にそして、地域医療に新たな風を興そうと「北見での思い出づくりの集い」を企画

協力へのお願い

私達の会は会費で

日、(株)坂口精肉店の本社を訪問。坂口政義(代表取締役社長)さんと面談をす

運営しています、その予算は恥ずかしながらとても少なく、皆さんをお招きする財政力はありません。

そこで企画書を作り、協力をお願いにそれぞれの企業を訪ねることになりました。

今年6月のある

ることが出来ました。

当方の企画をお話をするとその場で協力を即断してくれました。「このようなことは北見市民の誰かがやらなければならぬこと、無償で全面的に支援する、詳しくは味覚園楽町支店と打ち合わせをして下さい」とのご指示を戴きました。

その勢いで、オホーツクビール(株)の渡辺克良(代表取締役専務)さんを訪ね、私達の企画を話しました。

気持ちよく賛同して、地ビールを無償で提供して戴くことになりました。

午前中のフォークダンスは北見フォークダンス協会とアクセスすることが出来、大西会長さん外10名ほどの会員の皆さんからフォークダンスを優しく教えて戴き、共にダンスを踊ってくれることになりました。

お招きのチラシ

上のようなチラシを作り、病院のイン

誘いをしました。平成26年8月16日(土)、北海道新聞が「名物の焼き肉、ビール味わって、



北見日赤の研修医ら激励 支援する会、31日集い」の見出しで3段の大きなスペースを使い、カラーのカット入りで予告報道をしてくれました。

お天気に
恵まれて

北見赤十字病院・臨床研修医・歓迎イベント「北見での思い出づくりの集い」は晩夏の好天に恵まれ、病院の臨床研修の先生方、臨床検査部門や事務部門の皆さんと北見フォークダンス協会のメンバーなど40名余りが参加して、会場は賑やかでした。

午前10時、音響アンプやスピーカーの設置そして自家発電機が稼働して、心地よいリズムの音楽が流れてきました。

最初は少しぎこちなかったのですが、若い先生方をはじめ皆さん、愉快地フォークダンスを楽しみました。

正午、心地よい汗をかき、フォークダンスが終わり、8つの炭焼きコンロの周りで、焼き肉料理とおホーツクビールの会食が始まりました。



少しオホーツクビールが回った処で病院の総務課長さんの音頭で乾杯です。楽しい交流が続き、盛り上がった処で、会の副代表の森實さんが勤めている北見トヨペット(株)様より景品の寄贈があり、それを研修の先生方を優先して抽選会を行い楽しく過ごしました。

最後に当会の理事の表さんが参加の皆さんに御礼を述べ、3本締めで、お開きと成りました。

その後
先生方と

平成26年9月29日(月)夜、先日の臨床研修医のイベント



ントに参加した、加藤先生(北海道大学)、伊藤先生(聖マリアンナ医科大学)、大川先生(札幌医科大学)そして鈴木研修係長の皆さんと会から谷川・阿久津・阿部・逢坂が同席し、取材の懇談を致しました。研修プログラムに従って日々、研鑽を



味覚園 栄町店 様 より 焼き肉を
オホーツクピアファクトリー 様 より 地ビールを

御礼

好天に恵まれ、臨床研修医の歓迎イベント「北見での思い出づくりの集い」は事故もなく無事に開催することが出来ました。この度のイベントにはそれぞれのお店様から販売用の商品を無償で提供を頂き、誠に有り難く厚くお礼を申し上げます。また北見フォークダンス協会の皆様にも合わせてお礼を申し上げます。今回、お世話になった皆様のご健勝を願って、感謝を込めてお礼申し上げます。有り難うございました。

平成26年9月

北見赤十字病院の明日を考え支える会 一同

重ねている先生方は北見に住む前は「北見は何も無いところで畑ばかりの町」と聞いて来た。今は「食べるもののおいしく、空気が澄んでいて、何でもあるコンパクトな街なので気に入って居ます」。

先日のフォークダンスは小学校のキャンプでマймマймを踊った時以来です。「ほんとに楽しかった」。焼き肉料理とおホーツクビールは「最高においしかった」。

研修期間中なので、将来の方針はまだ決まっていらないが

パターンは二つあり、一つは「大学に戻る」今一つは「北見のこの病院で後期研修をお願いしたい」と複数の先生方は語っていました。



激痛

(下)

会員 阿久津 俊子

外出先から車を運
転して自宅につき、
家に入って二分、座
る間もない状態で胸
が痛みだした。平成
22年3月13日の
ことである。

この痛みは今まで
に経験した事がな
い。

いったいどうした
んだろう。すぐに今
度は背中に痛みがき
た。強い力で押さえ
つけられるような痛
みである。

冷や汗か脂汗か身
体中から噴出す。キ
ツチンのテーブルに
戻り、うつ伏せにし
ていると少し落ち着
く。何なんだろう、
身体の中で何が起こ
っているんだろう、
不安になる。

原因もわからずこ
の痛みだとコンビニ
受診にはならないだ
ろう。
救急病院に電話す

ると、「今すぐ救急
車を呼んで来なさ
い」と指示された。

病院の入口で看護
師さんが数名待つて
いて声をかけて下さ
った。「先ほど電話
してきた人? はい
このストレッチャー
に寝て」痛くて横に
はなれないという
と、座ったままでい
いからと言われ診察
室に入った。

先生が、「何時か
ら、何処が、どのよ
うに」と次々と質問
してくる中、看護師
さんは手際よく、着
ているものを脱がせ
て病衣に取り換えて
いく。

血圧が異常に高
い、痛み止めの注射
をしてレントゲンと
CTを撮り診察室に
戻ってくると、「阿
久津さん、原因が解
りました。これはち
よっと重い病気です

よ。大動脈解離と言
って大動脈の内側の
血管壁に裂け目が出
来て、そこから流れ
出した血液が中の膜
を引き裂いたので痛
みが出たのです。心
筋梗塞と並ぶ激しい
痛みの出る病気だか
ら、血圧を下げなが
ら治療します。この
まま入院して絶対安
静です」と循環器内
科の齊藤先生のお
話。

なにがなんだか分
からないうちに七階
の救急病室に入院し
た。

七階の救急病室に
はいろいろな患者が
毎日運ばれてくる。
病状が安定し四人部
屋に移ったとき、い
ろいろな状態で入院
に至った患者さんの
いきさつを聞いた。

一人暮らしで気分
が悪くなり倒れてい
たところ、近所の人

が見つけてくれて運
ばれた人、どれぐら
いの時間倒れていた
かも判らないとい
う。

また糖尿病で定期
の診察にきたら、数
値が異常で即入院と
なり、さらに悪化し
てICUに一週間も入
っていたとか、私の
ように循環器内科の
者もいれば、脳梗塞、
心筋梗塞、糖尿病な
ど、重症の人が多か
った。

この病院がなかつ
たら、また後一日遅
かったら命がなかつ
たと、涙ながらに話
し合った。そして、
当面の目標は《後五
年元気でいようね》
と新しい病院仲間と
励ましあった。思え
ば私も土曜、日曜と
自宅で我慢していた
ら大動脈は破裂して
手術ということにな
り大変な事になって
いたかもしれないと
いわれた。

医師の適切な診断
と治療、細やかな患
者への声かけと指

示、また絶対安静の
私が食事、沐浴、排
泄、何一つ自分で出
来ないとき、「良く
なるからね、頑張ろ
うね」と声をかけな
がら、体を拭いて下
さる看護師さん。恥
ずかしさと申し訳な
さともじもじして
いると、「病気になる
った人は病人をして
いること、早く良く
なることが一番です
から」その若い看護
師さんの手のぬくも
りに泣きそうになっ
た。

また、歩けるよう
になりリハビリが始
まると理学療法士の
先生に、自宅での生
活を想定して以前の
ように、以前以上に
治療と社会生活との
間の障害の発生と不
安を取り除いていた
だいた。

今まで健康な時は
気にもとめていなか
ったが、この一カ月
の入院を機に、日本
の北の果てオホーツ
ク地域で、唯一小児
救急医療、総合周産

期母子医療センタ
ー、救命救急センタ
ーのあるこの病院の
大切さを痛感した。
確かに北海道内には
大きな病院はたくさ
んある。

しかし、札幌まで
車で五時間、旭川ま
で三時間、ドクター
ヘリの離発着設備も
ない環境で、赤ちゃん
が、子供が、お年
寄りが緊急事態に陥
った時、いや若者だ
って交通事故や災害
など緊急事態はやつ
てくる。人の命に地
域差があつてはなら
ないと、考えさせら
れた。

今七十歳これから
高齢社会を、この地
域で過ごすために、
また子供や孫達を病
気から守るために、
この病院をはじめ地
域の病院の大切さを
伝えたいと考えるよ
うになった。
小さな応援団にな
りたい。大好きな日
本ハムファイターズ
の応援団のように。
感謝をこめて。

編集後記

病院の野球チーム
は日赤全道大会で優
勝し、今月4日・5
日、仙台で行われた
「第14回赤十字病
(産)院スポーツ大
会」に出場。2回戦
で昨年の覇者・和歌
山医療センターに勝
利出来ず、残念。

9月28日(日)、
大阪の大阪ATCで
行われた「eレジフ
エア2014 in 大
阪」の会場に研修係
長の姿が。北見日赤
のブースで研修医向
けの病院説明とリク
ルトを行っていた。
その翌日、懇談
に出席戴き、有り難
うございました。

本紙、「その後、
先生方と」はほんの
少しの記事になり申
し訳ございません。
今回を深耕して、
(仮称)臨床研修医
歓迎イベント・Pa
rt2「研修と医療
人生、北見市民と語
る夕べ」を企画して
います。(逢坂)